

カンガルーシップ活動
ネイバーサポートプロジェクト
実施報告書

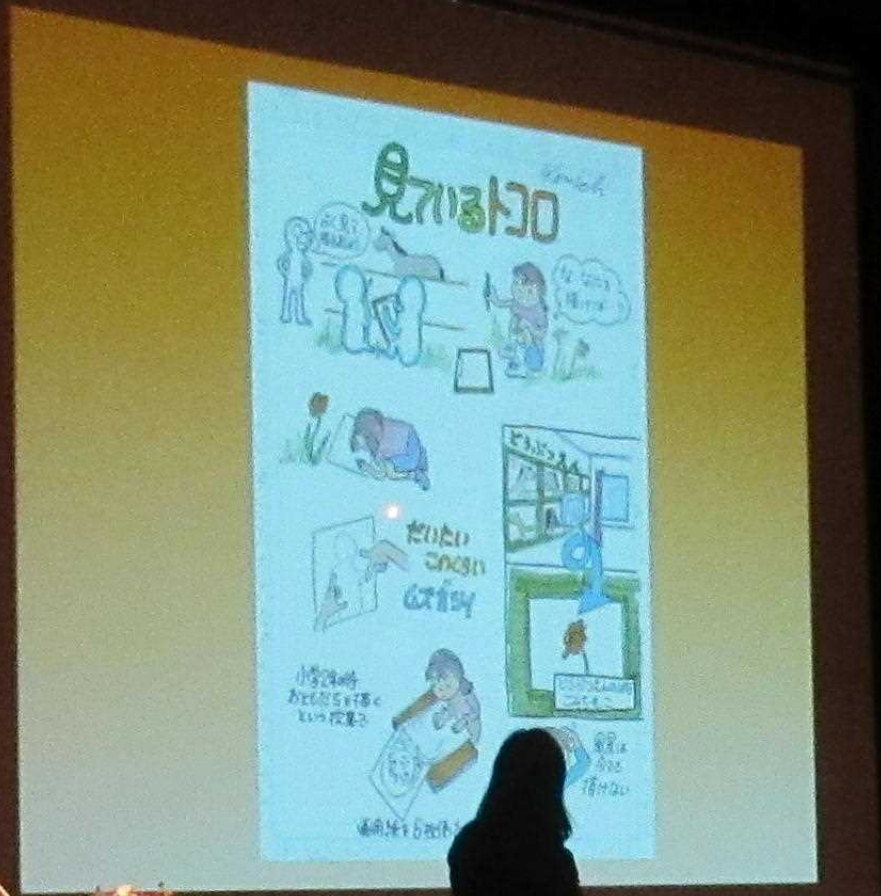
報告日 平成 27 年 12 月 24 日
学校名 佐賀大学文化教育学部附属幼稚園
PTA 会長名 森 信雅

実施概要	実施活動名	四附属育友会講演会
	実施日時	平成 27 年 11 月 10 日 (火)
	実施場所	佐賀県立男女共同参画センター「アバンセ」大ホール
	実施目的	四附属の保護者が一堂に会し、発達障害について学ぶ
	実施内容	発達障害の診断を受けている小道モコさんの講演を聞いた
	実施方法	四附属で当番を回しており、今年度は本園が当番で、講演会を開催した
	参加人数	292 名

報告事項	内容	<p>「自閉症スペクトラム」の診断を 33 才の時に受けた小道モコさん (現在 45 才) の講演を聞いた。</p> <p>小さい時から、周りの子ども達と同じようにできないことに対して、自分はどうしてそのような行動をとったのかずっと悩んできたが、今から振り返るとこういうことだったと説明された。それを聞いて、私たちは、普段自分が当たり前と思っていることが当たり前ではない人がいるのだ・当たり前を押しつけることで傷つけてしまっているのだと思い知らされた。</p> <p>また、小道さんの人生を支えているのは、高校生の時に 1 年間アメリカに留学した時、美術の先生が小道さんの絵を認めて、毎日宿題を出して、小道さんが絵を描いて自信をつけることを手伝ってくれたことだそう。</p> <p>発達障害の人の感じ方を学び、子育ての中で一番大切なことを学べた講演会だった。</p>
	結果	<p>四附属のたくさんの保護者が聞きに来てくれた。アンケートは、参加者 292 名のうち 260 名が提出してくださった。講演内容が「大変良い」が 50%「良かった」35%、合わせると 85%の人に好評であった。また、感想をお書きくださいの覧には、75%の人が書き込んでいた。もちろん「眠たかった」「レベルが低かった」など批判的な意見も何人かは書かれていたが、ほとんどが「分かりやすかった」「考えさせられた」など、好意的な感想であった。しかも、ぎっしり書いてくださった方がたくさんいた。感想は別紙に紹介する。</p>
	所感	<p>講演をお願いした時、接待や弁当は不要・質問は受けない・参加者とエレベーター等で会わないようにしてほしい・会場の明るさや音のハウリングやノイズが大きいと話ができない・・・など、細かな指示が書かれた紙が添付されてきたので、担当園としては、とても気を使った。しかし、予め言っていたのでスムーズに運営ができ、たくさんの保護者に当事者の話を聞いてもらえ、「良かった」とたくさんの感想をもらい、企画して良かったと思う。この助成金をいただけたので、附属学校園は例年と変わらない負担金で遠方からいい講師を呼べて、本当にありがたかった。(副園長庄籠)</p>

添付書類	収支決算書 (領収書添付) ・参加感想 (保護者)
------	---------------------------

佐賀大学
文化教育学部 四附属講義台



提出日 平成 27 年 12 月 24 日

学校名 佐賀大学文化教育学部附属幼稚園

カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

附属特別支援学校保護者

- ・息子と全くだと思いがちになった。
- ・こういう風に感じるんだ。そういう事だったんだ感じた。
- ・ほめて育てるは間違ってたなあと感じた。
- ・自分研究ということに興味があった。
- ・自閉の考え方や難しさがわかった。イラストが分かりやすかった。
- ・努力より工夫という言葉にすごく励まされた。
- ・自閉症スペクトラムは視覚支援が大切で休日でも必要ということが分かった。
- ・今後どのように活かすかが私たちの課題だと思う。
- ・本日の講演を聴いて、自分自身が自閉症スペクトラムということに自覚でき先生に感謝してます
- ・言葉だけの理解より、目で見ることが本人に対しては分かりやすいと分かった。
- ・我が子のトンチンカンがこういう事で起こっていると思え、少し理解できた。
- ・この講演は現場で実際関わられる先生方にも聞いて欲しい内容だった。
- ・今回の題材で興味があり参加したが、こういう入口での話を聞くのに今回の内容を突然聞くと混乱するので、講師の先生自身に制約がある方を呼ぶ程ではなかったと思った。私たちにとってはよくある話でしかなかった。

附属小学校・中学校保護者

活動に参加しての感想

- ・自分をひとつずつ研究することはすごくパワーがいることだなとつくづく思った。
- ・楽しい経験、たくさんほめられて嬉しかった経験は色褪せない思い出というのは誰にでも当てはまる言葉だと思いつつも印象に残った。
- ・自閉症スペクトラムと分かるまでは本当に生きづらい事でしたらと思う。
- ・どんな人とも分かり合えて暮らせる社会に近づくには私たち一人一人の意識が鍵になると思った。
- ・子どもに対して Q&A の成り立たない叱り方をしていたことに気づいた。勉強になった。
- ・とてもいいお話だったが四附属講演会でするお話とは違うと思った。保護者向きの話が聞きたかった。
- ・少し話が長かった。ASD のことが良く分かった。
- ・心の支えとなる経験をする事これは本当に大事だと思った。
- ・自分の生活で「普通」「常識」と思っていたことを反省した。
- ・固定観念で相手を判断してはいけない。違う観点からいろんな考えができた。
- ・一人の先生との出会いが今の自分を支えるというのが印象に残った。
- ・小道モコさんの話は、当事者からの目線、感覚、言い分が分かりやすく、なるほどと思う事ばかりだった。
- ・支援する側、される側もそれぞれ楽しく、という言葉が胸に響いた。
- ・自閉症の人の物事の捉え方、気持ちが子どものままのような病気なのかと思った。
- ・講演会としては、ただただおもしろくなかった。
- ・色々な工夫で、幸せに過ごすためのヒントがあると思う。

附属幼稚園保護者

- ・子どもに自分が作り上げた壁を押しつけていないか色々と考えさせられた。
- ・本を読んでみたいと思った。
- ・子育てのヒントになることがたくさんあった。我が子に求めるばかりでなく、自分の趣向を変えてみることでつくづく思い知らされた。
- ・自分のつまづきどころを見つけて工夫して生活してみる。色褪せない楽しい思い出を作れる大人になる。私の中で課題ができた。
- ・人には多かれ少なかれ自閉症の部分があるのではと思った。個性を受け止め褒めて受け止めていきたい。
- ・お互いが楽しく生活でき楽しい経験や嬉しい経験をたくさんできれば良いと思った。家族との話も聞きたかった。
- ・自分が知らない世界だったので参考になった。
- ・先生が小学生で感じた戸惑いには同感した。小学校入学前の子の母となり、これからも子どもを理解し、戸惑いに気づき見守られるようになりたいと思った。